

平成29年度第2回胎内市行政改革推進委員会議事要約

- 開催日時：平成29年6月29日（木） 午後1時30分～午後3時20分
- 開催場所：胎内市役所 大会議室
- 出席委員：今井和彦 天木正史 今井和子 鈴木俊一 成田武比古 布川拓男
橋本節子 (敬称略)

1 あいさつ

- ・会長あいさつ
- ・課長あいさつ

2 議事録署名委員選任

- ・第2回の議事録署名委員は、天木委員、橋本委員を選任する。

4 第3次行政改革大綱実施計画の策定について

- ・事務局より、前回会議で示した案から修正した計画案について説明。

- 委員 「検討・（実施）」とあって、次年度から矢印となっているものの意味合いは、毎年検討しつつ実施していくということか。
- 事務局 29年度に検討して、例えば30年度から実施できるのであれば、30年度からは実施ということ。
- 委員 「検討・（実施）」というのは、実施できるのがいつからになるかは、今は分からないということか。
- 事務局 その通り。実施する時期も含めて検討するということ。
- 委員 毎年度検討しながら実施するのと思ったが。
- 委員 毎年度検討と実施をするのではなく、いつから実施するかが決まれば、その年からは実施するということになるのでしょうか。
- 事務局 その通り。
- 委員 毎年同じことをやるのではなく、毎年度検討してグレードアップしていくのとは違うのか。
- 事務局 まず検討をしてみて、どうできるかを調整しながら、可能であれば29年度から実施する。1年目は検討が精一杯だというのは、30年度以降から実施するというような考え。
- 委員 実施した結果うまくいなくて手直しが必要ということは当然起きると思う。社会情勢・経済情勢が変わっていけば新たなものも加えなければならないし、修正も

- 必要になる。実施していくにあたり、半期単位の進捗状況の確認は不可欠だと思う。
- 事務局 進捗状況の管理については、半期は無理でも年度ごとには出来るものと捉えているので、年度ごとで進めさせていただきたい。
- 委員 No. 24 のように単独の担当課による実施項目で「実施・（検討）」になっているものは、もう少し強く打ち出しができないのか。
- 事務局 原則は出来るものから、スピード感を持って実施していく。前回の会議で示したスケジュールから、前倒しできるものは精一杯前倒しをした。
- No. 24 については担当課が総合政策課だが、前に実施した提案制度がなかなか提案が集まらなかった経験があり、今度は環境を整えて、提案が集まるものを目指していきたい。
- 委員 No. 1 で「行政情報の見える化を促進する」とあるが、もう少し具体的に書いた方がいい。
- No. 5 の「研修会等の開催」の対象は職員だけか、市民団体や市民も入るのか、具体的に書いた方がいい。
- No. 6 で「機会の創出」とあるが、どのような方策で機会を創出するのか明確に書いた方がいい。
- No. 10 の「しくみをつくります」とあるが、しくみは漢字で書いた方がいい。また、「改善の実効性を担保します」という記述はもう少し分かり易くならないか。
- No. 12・13・14 のスケジュールは「検討・（実施）」でいいと思うが、実施内容で「検討します」となっていながら、スケジュールは 29 年度から「検討・（実施）」となっている。実施内容の記述を「検討・実施します」とした方がつながるのではないか。
- No. 17 の「ある予算をあるがままに執行するのではなく」の文章をもう少し考えた方がいい。
- No. 18 は「費用対効果を十分に吟味した予算管理を徹底する」とした方がいいのではないか。
- No. 20 「民間活力の導入推進」のところは、「民間活力の導入を検討し、実施する」とした方がいいと思う。
- No. 21 の「行政課題に対応する専門部署の設置を検討する」は、「対応する」でなく「対応のできる」という表現にして、対応していく姿勢を表現すべき。
- No. 22 に「若手職員や女性職員を積極的に起用しながら」とあるが、今の社会情勢では老若男女問わず適材適所で人材を活かすのは当たり前のことで、ここでだけ謳うと他ではどうなのかととられかねないので、あえてここに入れる必要はないのではないか。
- No. 23 で「研修成果を還元する機会を設ける」とあるが、「研修発表会等を開催し、研修の成果を他部署での業務改善・業務効率化にもつなげ、さらなる改善成果の実現につなげていく」というような具体的文言にした方が分かりやすいのではないか。
- No. 24 に関して、改善提案制度が今一つ浸透していない、不十分だということだが、まずはこれをしっかりと実施し、他の人に成果を知ってもらって、いいものは水平展開を図っていくのがいいと思う。
- No. 26 について人事評価制度をしっかりと形にし、的確な運用が必要なのではないか。人事評価に基づいて評価し、適材適所で活性化を図ることにつなげたらど

うか。

議長 いま委員から意見が出されたが、会議の流れとしては、前回の会議で出しきれなかった意見は文書なりで事務局へ提出し、今回はその意見を反映した計画案について検討して、よければ委員会として計画案を決定するという事だった。これをどう進めたらいいか、意見をお願いしたい。

委員 実施内容はこれ以上加除はなされないのか。

事務局 計画の最終決定は行政改革推進本部長である市長だが、皆様の意見が最大限生かされるように努める。また、行政需要の変化等で今後計画内容の見直しが必要になったときには委員の皆様にも再度お諮りし、審議をお願いしたい。

委員 計画が決定する目途はいつ頃か。

事務局 委員の皆様が審議がよいところまで進んだ段階で推進本部に掛け、市長決裁を行い、7月中という流れでいければと考えている。今回の会議で審議は終わりの段階と考えていた。

委員 委員が言った中身と書いてある中身で、そんなに意思疎通ができていないわけではないので、文言はこれでいいと思う。ただし、No. 22 で追加された文言については、事務局から説明が必要だと思う。

事務局 かつて行われたプロジェクトチームでは、経験値が必要という理由で係長級を充てることもあるが、既に若い人や女性も入れている。しかし、今日的な視点で力説する必要があるであろうこと、また、いちばんあてはまるのがこの項目であり、象徴的な項目としてここに盛り込むということで、委員からいただいた意見を反映した。

委員 計画に、例えば市が抱える少子高齢化などの視点の内容があってもいいかと思う。

事務局 まちづくりのマスタープランは総合計画であり、総合計画で3つの基本的視点として「未来への投資」「選択と集中」「市民協働」を掲げている。この「未来への投資」の中で、子育てと教育、少子化対策を示している。いま皆様には、総合計画を実現するために行政としてどういったしくみと手法をもって推進していったらいいかということを考えていただいている。

事務局 先ほどのご意見について、事務局の考えをお答えする。

No. 1 は、前回会議でも発言があったが、他意としてそれほど違わないのであれば、ご理解いただきたい。

No. 5 の研修会の対象は、市職員のほか、市職員と市民との共通認識を得るという目的があれば、市民を含む場合もある。

No. 6 のマッチング機会の創出については、市民活動団体をつなぐ機会を以前に持ったことがあり、その経験を生かして実施する。

No. 10 のしくみの表記は、やわらかさから一般的になっているのでそうした。「担保する」については、「確保する」や「保証する」というと堅苦しく、ほかに最善の言葉が見当たらなかった。

No. 12～14 については先ほど話したとおり。新たな方策が出てくるかわからないので、検討のニュアンスが強い。

No. 17 はおっしゃるとおりかもしれないが、役所では、例えば 1000 万の予算があったところを 500 万の執行で終えたとなると過大見積りをしたことがよく問われるところであり、この意識を根本的に変えていかないと大切に予算を執行したことになるので、あえて記述をした。

No. 18 に関する「費用対効果を十分に吟味した予算管理を徹底する」については、事務事業評価を通じて次年度の予算に評価結果を反映させることを主眼としたものであり、予算管理よりも編成を重視するものと考えている。

No. 20 の民間活力の活用は、経験がないため難しいものと考えており、検討するとした。

No. 21 の専門部署の設置については、大がかりな上、十分吟味した上でやっていく必要があるので、29年度は検討とした。

No. 23 については、課題を自ら見つけて発表するという研修を以前やっており、これを作り変えて実施していくということで、このような記述にした。

No. 26 の人事評価の有効活用は、どういうふうに関々人の評価が透明性・客観性をもってなされていくかが難しいところで、今後書きぶりを変えたり、改正をすることも考えられるので、この記述にした。

議長 いまの説明に対して、皆さんの意見はいかがか。

委員 この案でいいと思う。ただ、一つ気になるのは、No. 22 の女性職員云々というのは当然どこでもやるべきことなので、この項目だけにあえて入れるというのはどうかという気もする。

委員 No. 22 について、市役所の仕事を見たときに、女性や若者が見えないと直感的に思う。こうした人たちが前面に出てくれば見えてくるはずなので、そういう行動を見せてほしい。見せる場としてはプロジェクトチームじゃないかと思う。

委員 うがった見方をすると、プロジェクトチームのところだけ若手・女性と書いてあると、ほかのところはどうなのかと逆の捉え方をされると思う。

委員 課題の解決という、年配者・経験者の方とともに、課題を負っていく責任世代の若手も入れてしかるべき。多様性を求めるのであれば、男性ともの見方や目の付け所が違うので、女性も入れたほうがいい。多方面からの意見を求めるのが有効だと思う。

委員 この記述はこれでいいと思う。

委員 私もそう思う。この項目だけという捉え方にはならないのでは。

委員 象徴的な記述であるという事務局の説明は納得できるものだったので、削除すべきことでもないと思う。

事務局 市民から女性や若い人が見えてこないというのは、市役所のプロジェクトチームは協議・検討の場であったから。考えてまとめるだけでなく、アクションを起こしていく場と捉えたい。プロジェクトをどう捉えるかによって、いろんなニュアンスがあるのかと思う。

委員 若い人、女性、年配者も入って立ち上げた「食」のわいわい会議が私のプロジェクトのイメージ。そういうものになればいいと思う。

事務局 市役所の内部の検討会議というイメージで考えられてきたという節があるので、もう少し幅を広げて考えていけたら、若い人や女性がフィットしやすくなるものと捉えている。

委員 私のプロジェクトのイメージは、一つの課題があって、それに対して各部署からチームを出して、一つの結果や成果を生み出していく組織体を作って活動するというイメージだが、そうでないのであれば捉え方が違ってくる。

これまでに市役所で起こしたプロジェクトの実績はあるか。

事務局 組織機構改革に関するプロジェクトチームがかつてあり、総合政策課の立ち上げ

- などをこの中で行った。
- 事務局 発展的なプロジェクトというからには、市役所の中だけでなく、市民協働という視点で、いろんな人に入っていただくことでよりよいものができるのであれば、市民の方と一緒にプロジェクトチームも幅広く考えていきたい。
- 委員 老若男女が一体となった形で活動を進めていくのが、今の時代に合った形ではないかと思う。
- 議長 この項目については、全体的な意見としてこの表現でいくべきと捉えたので、これでいきたい。
- 委員 実施していく上で、もっと細かい取組みが項目として出てくるものと思ったが、第2次大綱実施計画の進捗状況表でも28の項目があって、40の取組みがされているので、内容がもう少し細分化されてくるものと捉えている。
- 委員 実施内容は年々膨らんでいく、そういう姿勢で文言を捉えるべきと思う。
- 事務局 実施内容としてはこのように定め、取組内容はこれより幅が広いものになってくるといってご理解いただきたい。
- 議長 全体を通して、この計画案を計画とする方向で進めて行ったらどうかと思うが、いかがか。
- 委員 説明が抽象的で納得できない。具体的な話がない。
- 事務局 既にご説明したが、抽象的にならざるを得ない部分もある。皆様の総意としてどうかを議長にまとめていただければ、それを皆様のご意見として進めさせていただきたい。
- 議長 今回の会議で議論をまとめられればと思う。今日出された意見についても、事務局に説明願って、皆さんもこの線でいいということだが。
- 委員 異論ありません。
- 議長 それでは、この案を大綱の実施計画として進めさせていただく。実施内容はこれをもとに、会議の意見も踏まえてさらに細分化して広げていくということをお願いする。
- 委員 異議なし。
- 委員 「取組」「取り組み」の送りがな表記に使い分けがあるのか。
- 事務局 確認して整合をとる。

以上